

YOUTH MANNA

Grace
Community
2024
Be

Acts 2:42



彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。使徒の働き 2章42節

2024/5/13(月)

出エジプト記27章

1. 祭壇、庭、ともしびについてわかること、ここからイエス様に繋がることを書き出してみよう。

①祭壇 (1-8)

②庭 (9-19)

③ともしび用の油 (20-21)

2. 難しい箇所が続くけど、図解などを使いながら、幕屋が天にあるものの写しである(ヘブル9:23)ことを理解できるよう祈ろう。

2024/5/14(火)

出エジプト記28:1-14

イスラエルにおける最初の大祭司はモーセの兄アロンでした。それ以降神様の選びによってアロンの子孫が祭司として仕えました。大祭司は普段着で仕えるのではなく、神様の栄光と美を表す聖なる装束を着ました。装束の一部であるエポデにはイスラエルの部族の名前が順に刻まれたしめめのうがはめ込まれました。それは彼らの名前が覚えられるためでした。祭司は神様との交わりの回復のために仕えました。

民と神様の仲介者である新約の時代の大祭司はイエス様です。一人ひとりの名前を覚え神様と私たちの間に立てとりなしてくださるイエス様の愛を受け取って今日も一日を歩もう！！

2024/5/15(水)

出エジプト記28:15-43

昨日の箇所引き続き、祭司の衣装への指示が書かれている。

[15-30]さばきの胸当て

目的は何だろうか？29節を読もう！

[31-43]青服、純金の札、長服など祭司が何を着て奉仕をするべきかが細かく規定されているね。35,43を読むと、祭司が命をかけて神様の言う通りに従う必要があったことがわかるね。

1ペテロ2:5を読んでみよう！私たちが神様から選ばれ召されているなら、私たちは神様のことばに対してどれほど真剣になるべきだろうか？私たちの内に働いてくださる御霊によって今日も歩んでいこう！

2024/5/16(木)

出エジプト記29:1-18

祭司として仕える前に、神様の前に聖別される必要があった。そこには神様が定めた手順があって、10-14では「罪のきよめのささげもの」がささげられ、15-18では「全焼のささげもの」がささげられた。

第一に神様が聖いお方だということを知ることが大切なことだね。だから祭司は自分自身を、神様の定めた方法で聖別する必要があった。全焼のいけにえは神様との正しい関係を保ち、日毎の献身を表しているよ。

今私たちはイエス様の十字架によって罪赦され、神様のものとされているんだ。私たちをご自身のものとするために、どれほどのことをしてくださったかを思い起こして感謝しよう！

2024/5/17(金)

出エジプト記29:19-46

38-46vまで読もう。ここには祭壇の聖別と出エジプトの目的が書かれているよ。

●祭壇では何が、どのように捧げられていたかな？38-39v

●46v雄羊の捧げ物は民が出エジプトの目的を知っていくためのものでもあった。神様は何のためにエジプトから脱出させたんだろう？

●朝夕に雄羊が焼かれる時、民は宿営の中でその煙を見、においを感じたと思う。きっと毎日五感で体感して神様のことを考えたよね。神様って五感で体験して礼拝するものじゃないかな。きみは神様を体感すること、意識してるかい？頭も心も感覚も全部使って神様を礼拝していこう！

2024/5/18(土)

出エジプト記30:1-21

今日の箇所では、幕屋の細かいところの説明と、毎日の祭司の働きについて具体的に知ることができるね。

祭司は朝も夕方も香を炊いて神様にささげていた。これは神様に捧げる祈りを表していたんだ。また、神様に人口登録をした時に捧げる償い金は、主に贖われていることを示す。

働きのところどころで手足を洗うのは、主に清められてこそ仕えることができるから。

この祭司の働きから学び、私たちの日常生活で神様の前にできることは何だろう？祈り、考えてみよう！

2024/5/19(日)

使徒8:26-40

私たち信じる者たちのうちに今も住まわれる聖霊が、どのように働かれる方なのかを、改めて確認しよう！

・26節と29節でピリポは誰の声を聞いた？
・聖霊はピリポを用いてどんなことをされた？宦官に起こったことはどんなことだった？

神様の導きは何とタイミングが良いだろう！救いを受けた宦官は、御霊の実である喜びに満たされて帰途につきました。聖霊は続けてピリポを導いて、アゾト、カイサリアで福音を語らせ、後には娘たちも預言者となりました(21:8-9)。そのずっと先に、今福音を信じる私たちがいます。

今日は、弟子たちの上に聖霊が注がれて、教会が生まれたことを記念するペンテコステです。神様からもらった恵みを覚えて感謝しよう！